

# 古きを訪ねて新ひきを知る 7

文化財保護課 224-6097

## 川越氷川祭の神幸祭

川越まつりでは、神輿を中心とした行列(左写真)が巡行する場面に、出会います。これは、川越氷川祭の神幸祭の行列。慶安年間(一六四八〜五二年)、当時の川越藩主・松平伊豆守信綱が、氷川神社に祭礼道具を寄進したことに由来します。この神幸祭で行われた山車巡行が発展したものが、現在の川越まつり。平成17年には「川越氷川祭の山車行事」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。約三六十年にわたり、受け継がれてきた神幸祭。先頭で太鼓がたたかれ、榊や獅子頭などを持つ人、二台の神輿、神馬に乗った宮司などの行列が百メートルほど続き、厳かな雰囲気漂います。



そして、この行列の後に山車が連なっていく様子は、見応えがあります。今年(2022年)の神幸祭は10月16日(土)、午後1時から行われる予定です。足を運んで、川越まつりの起源に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

## 川越のサツマイモ

10月13日はサツマイモの日。10月は収穫の最盛期です。栽培技術の向上・品質の安定・PR活動などに力を入れるため、平成20年、直売・観光農園を営む市内13軒のサツマイモ農家が「川越いも研究会」を設立。会長の坂本宏之さん(今福)



は、「安全でおいしいサツマイモを作るため、病害虫の抑制や減農薬に努めています」と話します。寒さと水分が苦手なサツマイモは、今年の猛暑の影響はほとんど受けず、むしろ生育が早く、甘くなっているとか。栄養面では、食物繊維やビタミン類を多く含み、加熱してもビタミンCが壊れにくいのが特徴です。

最近ではホクホク系の「ベニアズマ」のほか、電子レンジで手軽に調理できるしっとり系の「クイックスイート」も人気です。いも掘りに来た幼稚園児は、大きなサツマイモと奮闘。自分の力で掘ったサツマイモを手にも満面の笑顔でした(写真)。ホクホク・しっとり……皆さんは、どちらの「川越いも」がお好みですか？



ぬ、抜けない〜! おっきいの取れたよ!

編集後記

## どんぐり

川越まつりの最大の見どころ・曳っかわせが始まると、祭りは最高潮に達します(表紙写真)。一か所に集まるきらびやかな山車、夜間に映えるちようちんの光、テンポの良い囃子、飛び交う若衆たちの掛け声……。目から耳から、川越まつりのだいご味を味わうことができます。今年(2022年)は10月16日(土)・17日(日)に行われる川越まつり。舞台となる町内では、紅白幕の軒ぞろえ、囃子の練習など準備は着々と進んでいます。16日の宵山、両日行われる山車巡行や曳っかわせ。広報室でも、祭りの雰囲気や情報などを盛り込んで、飛び切りの一瞬が撮れるよう、市街地を奔走します。

小江戸川越観光 キャッチフレーズ

時 薫るまち 川越